

月夜禁垣外を歩す（柴野栗山）

上苑の 西風 桂香を 送る

承明 門外 月 霜の 如し

何人か 今夜 清涼 殿

一曲の 霓裳 御觴を 奉ず

上苑西風送桂香 承明門外月如霜
何人今夜清涼殿 一曲霓裳奉御觴

解説 この詩は、栗山が京都の御所の外を散歩して作った即興の詩である。

語釈 ※上苑Ⅱ上林苑の略。天子の庭園の名。 ※西風Ⅱ秋の風。

※桂香Ⅱ木屋の香り。 ※承明門Ⅱ内裏の一番内側の囲い。「内の重」についている門の一つ。 ※清涼殿Ⅱ宮殿の名前。 ※霓裳Ⅱ霓裳羽衣の曲の略。 ※御觴Ⅱ天子の御さかずき。

通釈 御所の外垣にそって歩いてみると、御苑を吹きわたる秋風は木屋の香りをただよわせている。承明門の外は月の光が冴えわたり、まるで、霜がおりたように白く光っている。折りから清らかな笛の音が聞こえてきた。今夜、清涼殿で一曲の霓裳羽衣の曲を奏して、御杯を奉じているのは誰であろうか。